

# 2023年4月27日掲載 物流ウィークリー

内製化・自社化による

コスト構造改革で

新卒採用

増加

## 第一貨物

迫る2024年問題、運送会社にとってますます困難な状況となっている人材の確保。そのような状況のなか、この数年の間に新卒採用を大幅に増加してきた第一貨物（米田総一郎社長、山形県山形市）。同社がなぜ、新卒採用を増加することができたのか、その背景を取り組みについて、話を聞いた。

同社の入社式が1148人だった。この日に行われた。今年この数年でみると、2度の新入社員は、事020年が39人、21務職50人、運転職54人が103人、22人、整備職6人、口が108人と採用を

米田社長は「当社では、内製化・自社化によるコスト構造改革と飛躍的業容拡大に、社員一丸と採用を

大いに増やしている。景とての使命を背

同社が新卒採用を大幅に増加してきた理由、あるいは大幅に増加できた理由として「社会インフラとしての使命を背

まず、「社会インフラとしての使命を背

採用時には、社会

一週二休制、社宅の整備等処遇の改善については、同社では2020年に大卒採用については

3月以前のインターンシップ期に広報活動を集中させること

る（そのために、当社の給与水準等の処遇は同業他社比で特に抜kindでたものではないが、新卒採用を近年大幅に増加してきた」と話している。

同社が新卒採用を大幅に増加してきた理由、あるいは大幅に増加できた理由として「社会インフラとしての使命を背

まず、「社会インフラとしての使命を背

採用時には、社会

一週二休制、社宅の整備等処遇の改善については、同社では2020年に大卒採用については

3月以前のインターンシップ期に広報活動を集中させること



米田社長

次に、採用者数増加の直接的動機付けとなっている「自社化の推進」について、同社はコロナ以前に、長年ドライバリの採用難が続き、外注先への委託比率が高止まりしていたが、結果として高効率に進められるよう、施設増強を行っている。

このような近年の地道な採用活動により、同社では困難な状況となっている人材の確保を、この数年で増加させることに成功しており、「マイナビ・日経2024年卒大学生就職企業人気ランキング」地域別において8位にランキングされるなど、実を結んでいる。

（三村秀寿）